

長崎大水害から35年

-災害に強いまちを目指して-

35年前の7月23日に起きた長崎大水害では、299人のかたが犠牲になりました。災害から身を守り、被害を最小限にとどめるためには、日ごろからの備えが大切です。市では、防災や減災について学び、考えるために、次のような取り組みを行いました。7月上旬に福岡県や大分県で発生した「九州北部豪雨」では、緊急消防援助隊を派遣し、救助活動を行いました。

地域 日見で地域マップづくり



防災のほかに、地域の歴史や魅力なども学びました

長崎大水害で、死亡・行方不明者が36人にものぼった日見地区。この夏、地域の方々が協力し、日見小学校の児童や保護者と一緒に、防災やまちについて、語り合い、まち歩きを通して考える催しを4回シリーズで行いました。

■問い合わせ 日見支所(☎838-3104)

若者 高校生の消防防災 サポーターを育成



長崎大水害の体験談を聞くなど、有意義な講習になりました

これからの時代を担う高校生を対象に、消防や防災を学ぶ養成講座を実施しました。

災害や救急現場に居合わせた際に、的確な初期対応ができるように、応急手当や簡易担架の作成などを学びました。

■問い合わせ 予防課(☎822-0425)

物資 輸送 被災者に確実に 物資を届けるために



物流3社と県内では初めて協定を締結しました

昨年の熊本地震では、全国から届けられた救援物資が被災者まで行き渡らない問題がありました。

このような課題を踏まえ、災害時に迅速で円滑な荷さばきや輸送ができるように、日本通運(株)、ヤマト運輸(株)、佐川急便(株)の物流3社と協定を締結し、スムーズな物資輸送を目指します。

■問い合わせ 防災危機管理室(☎822-0480)

救援 九州北部豪雨で 緊急消防援助隊を派遣



計33隊134人の人員を派遣しました

福岡・大分で発生した「九州北部豪雨」の救助活動のために、7月6日未明に緊急消防援助隊長崎県大隊を組織し、およそ2週間、市消防局職員を福岡県朝倉市や東峰村に派遣しました。

被災地では、行方不明者の搜索活動や救出に全力で取り組みました。

■問い合わせ 警防課(☎822-0448)